

安房直子 コレクション 全7巻

安房直子
主要作品71点と
エッセイ40点を
収録

・安房直子の短編・中編・長編から代表的な作品を選び、71編をあらたに7巻にわけて刊行

・単行本未収録作品「オリオン写真館」「丘の上の小さな家」「うさぎ座の夜」を収録

・雑誌等に発表された多くのエッセイの中から、子どものころの思い出、創作姿勢、読書体験についてなど、作家・安房直子の人となりを読みとれるエッセイ40編を選び各巻に掲載

・第7巻巻末には、安房直子作品全著作物を年代順と作品別の両方のリストで掲載、また、安房直子年譜をのせ、読者の便宜をはかった

絵：北見葉胡
装幀：吉田浩美
吉田篤弘



A5版
ハードカバー：カラー
平均330ページ
口絵：カラー
本文：モノクロ



2004年2月より刊行
3月完結

1

なくしてしまった 魔法の時間

11の短編とエッセイ



(初期の短編集『風と木の歌』『童話集 白いおうむの森』『北風のわすれたハンカチ』より)

安房直子の初期の作品が中心。淡い初恋、死んでしまった娘の思い出など、「とりかえせない時間」が物語の核になっている。代表作「さんしょっ子」「きつねの窓」「鳥」を収録。「さんしょっ子」は日本児童文学者協会新人賞受賞。

収録作品

さんしょっ子・きつねの窓・空色のゆりいす・鳥・夕日の国・だれも知らない時間・雪窓・てまり・赤いばらの橋・小さいやさしい右手・北風のわすれたハンカチ・エッセイ



2

見知らぬ町 ふしぎな村

15の短編とエッセイ



(子どものための短編集『まほうをかけられた舌』『童話集 遠い野ばらの村』より)

子どものために書いた短編が中心。安房直子の作品の特徴であるお店屋さんが舞台になっている作品が多い。「魔法をかけられた舌」「青い花」「だれにもみえないベランダ」などのほかに単行本未収録作品「オリオン写真館」を含む。

収録作品

魔法をかけられた舌・空にうかんだエレベーター・ひぐれのお客・ふしぎな文房具屋・猫の結婚式・うさぎ屋のひみつ・青い花・遠い野ばらの村・秘密の発電所・オリオン写真館・海の館のひらめ・ふしぎなシャベル・海の口笛・南の島の魔法の話・だれにもみえないベランダ・エッセイ

3

ものいう動物たちの すみか

15の短編とエッセイ



(子どものための連作短編集『ねこじゃらしの野原』『山の童話 風のローラースケート』より 他)

安房直子の代表的な連作短編集『ねこじゃらしの野原』と『山の童話 風のローラースケート』。安房直子が愛した野山に住む、ものいう動物たちとの交流を描いたファンタジックな作品。『山の童話 風のローラースケート』は新美南吉児童文学賞受賞。短編「きつねの夕食会」を含む。

収録作品

きつねの夕食会・ねこじゃらしの野原【すずめのおくりもの・ねずみの福引き・きつね山の赤い花・星のこおる夜・ひぐれのラッパ・ねこじゃらしの野原】・山の童話 風のローラースケート【風のローラースケート・月夜のテーブルかけ・小さなつづら・ふるふき大根のゆうべ・谷間の宿・花びらづくし・よもぎが原の風・てんぐのくれためんこ】・エッセイ

4

まよいこんだ 異界の話

2つの長編と2つの中編とエッセイ



(『ハンカチの上の花畑』他 子どものための中編と長編)

ひょんなことから異界に招かれ、そこで、なにかしらを失うかわりに大切なものを得て帰ってくる主人公たちを描いた作品集。『ハンカチの上の花畑』『三日月村の黒猫』『ライラック通りの帽子屋』のほかに単行本未収録作品「丘の上の小さな家」を収録。

収録作品

ハンカチの上の花畑・ライラック通りの帽子屋・丘の上の小さな家・三日月村の黒猫・エッセイ



5

恋人たちの冒険

2つの長編と3つの短編とエッセイ



(恋をめぐってのファンタジー『童話集 銀のくじゃく』『天の鹿』『鳥にさらわれた娘』より 他)

異形のモノと人は本当に愛しあえるのか。安房直子の作品のもう一つのテーマ。恋人たちの情熱と悲しみを描いた物語をあつめる。「天の鹿」「熊の火」「鳥にさらわれた娘」など。

収録作品

天の鹿・熊の火・あるジャム屋の話・鳥にさらわれた娘・べにばらホテルのお客・エッセイ



6

世界の果ての 国へ

10の短編とエッセイ



(すこしおそろしい短編集『童話集 銀のくじゃく』『童話集 白いおうむの森』『童話集 遠い野ばらの村』より 他)

安房直子の作品のなかでも、人のさがをのぞきこんだような、おそろしい短編を中心に、「鶴の家」「日暮れの海の物語」「長い灰色のスカート」など。

収録作品

鶴の家・日暮れの海の物語・長い灰色のスカート・木の葉の魚・奥様の耳飾り・野の音・青い糸・湯の花・紅葉の頃・小夜と鬼の子・火影の夢・野の果ての国・銀のくじゃく・エッセイ



7

めぐる季節の話

11の短編とエッセイ



(美しい季節の色の物語『花豆の煮えるまで—小夜の物語』『風と木の歌』『遠い野ばらの村』より 他)

連作短編集として最後の作品である赤い鳥文学賞特別賞受賞の『花豆の煮えるまで—小夜の物語』を中心に、山の季節の移り変わりを描いた作品を初期から後期までの中から選ぶ。未刊行の「うさぎ座の夜」を含む。付録・全作品目録・年譜。

収録作品

緑のスキップ・もぐらのほったふかい井戸・初雪のふる日・エプロンをかけためんどり・花豆の煮えるまで—小夜の物語【花豆の煮えるまで・風になって・湯の花・紅葉の頃・小夜と鬼の子・火影の夢・野の果ての国・銀のくじゃく】・エッセイ・年譜・作品目録